

平成13年度文部科学省補助事業「教材等研究・開発等」

研究協力校調査・研究校実績報告書

共同研究 B-1

「留学生・就学生に日本語コミュニケーション能力を涵養する」

— 中級の教室活動案作成を通して —

平成13年度文部科学省補助事業「教材等研究・開発等」
研究協力校調査・研究校実績報告書
共同研究B-1

「留学生・就学生に日本語コミュニケーション能力を涵養する」

— 中級の教室活動案作成を通して —

研究代表者 立野 みどり 東京YMCA英語・ホテルサービス専門学校 日本語科
研究員 嶋田 和子 イーストウェスト日本語学校
森 節子 東京YMCA英語・ホテルサービス専門学校 日本語科
澤田 尚美 東京YMCA英語・ホテルサービス専門学校 日本語科
逢見 久仁子 在日本韓国YMCAアジア語学院日本語学校

目次

1はじめに	2
2研究の目的	3
3中級日本語教育において考慮されるべき点	4
3-1技能を統合して場面・文脈に自然なコミュニケーションをする	4
3-2言い換え能力・まとめ能力を身につける	5
3-3コミュニケーション・ストラテジーを身につける	5
3-4クリティカル・シンキングを養う	6
4研究の方法	8
4-1初級・上級との違いを認識した中級の練習を考える	8
4-1-1文脈・場面・状況を明確にした練習	8
4-1-2談話としての結束性を考えた練習	8
4-1-3中級にふさわしい内容を伴った練習	9
4-1-4書くことと話すことの連携と違いを意識した練習	10
4-1-5語彙教育を重視した練習	11
4-2他者との関係性を重視した練習を考える	11
5「テーマ別中級から学ぶ日本語」を使った教室活動	13
5-1<いっしょに考えましょう>を考える	13
5-2<使いましょう>を考える	18
5-2-1現実に即した会話を考える	18
5-2-2適切な代入練習を考える	20
5-3<まとめましょう>を考える	23
5-3-1文章全体を単純にまとめる	23
5-3-2目的に合わせてまとめる	24
5-3-3表やグラフの作成	26
5-3-4自分の意見をまとめる	27
5-4<話しまましょう>を考える	28
5-4-1意見を言う	28
5-4-2依頼する	34
5-4-3交渉する	34
5-4-4話し合い、依頼、発表を総合的に行う	36
5-5<書きましょう>を考える	37
5-6「日本留学試験」に対応した教室活動例	45
5-6-1記述問題	45
5-6-2聴読解問題	49
6まとめと今後の課題	58
7参考文献一覧	59

1 はじめに

2002年6月より施行予定の日本留学試験では、日本語を使ってどのような課題を達成することが出来るかという総合的なコミュニケーション能力を測定対象としている。この「総合的なコミュニケーション能力」は、進学者のみならず様々な学習目的を持った学習者に対しても同様に求められ、それを如何にして獲得するかが重要な課題となっている。

日本語学校では新しい試験を目前にしてそれぞれの現場で、これまで行ってきた日本語教育の見直しを図ろうとする動きが見られる。しかし、いたずらに日本留学試験の対策に走ったり、表面的にカリキュラムを検討することに終わっては、意味のないものになってしまふ。これを機に客観的に現状を把握し、コミュニケーションを中心に据えた日本語教育の可能性を探していく必要がある。

初級では文型積み上げ方式によるカリキュラムが組まれることが多いことから、学習者は知識として持っていてもそれを運用し、コミュニケーションすることが難しいことが多い。そこで、昨年度の研究においては、①コミュニケーションが場面、文脈に拘束されていることに配慮する ②会話分析的な視点を持つ ③「教える」ことから自由になる といった点を考慮しながら教室活動を行うことを提言した。

中級においては、こういった点を踏まえながら更に「中級だからこそ考慮すべき点」を明確にし、より関係性を重視した教室活動が必要であると考える。文部省(現文部科学省)の新しい教育改革では「伝え合う力・コミュニケーション能力」がキーワードの一つとなっている。コミュニケーションは相手が受け止めて初めて意味を持つ。「伝える力」ではなく「伝え合う力」というところに他者との関係性が存在し、考えることの重要性が生じる。日本留学試験の測定対象となる「問題解決能力」とは思考力、考える力の一つである。つまり中級での教室活動においても、知識をただそのまま学ぶのではなく、常に関係性・状況性の中で考えながら学んでいくことが重要である。コミュニケーション能力の涵養に当たっては、使っている教科書に問題があるのでなく、教師の意識、物の考え方にも多くの問題がある。これからの中級においては教師自身が自分で考えることがこれまで以上に求められる。

中級を「初級から上級への橋渡し」といった消極的な見方ではなく、コミュニケーション教育において極めて重要な時期として捉える必要がある。中級での教室活動において何が問題か、どう上級につなげていったらよいのか、日本留学試験で求められる能力を如何にして獲得することができるのかを、新しい視座から考えていきたい。

2 研究の目的

昨年度、初級レベルでの具体的な教室活動例を提示することを目的として『みんなの日本語』練習 C に焦点を当て、研究を行った。今年度はそれを踏まえて、中級レベルにおける総合的なコミュニケーション能力を涵養するには、どのような教育方法で毎日の教室活動を組み立てていけばよいのかを模索し、具体的な活動案を提示することを研究目的とする。中級レベルでは多くの教科書が存在するが、本研究においては日本語学校で最も多く使用されている『テーマ別中級から学ぶ日本語』を取り上げる(註 1)。

なお、新たに施行される日本留学試験を受験する学習者に対して、上記の教科書を使ってどのような教室活動を行えば新試験に対応できるのかを試案として提示する。

註 1 2001 年 7 月エイ・アイ・ケイ教育情報部による「日本語学校の使用教科書調査」
(日本語学校・大学留学生別科 332 校中 241 校回答)

教科書	学校	%
テーマ別中級から学ぶ日本語	127	53%
文化中級日本語	29	12%
日本語表現文型中級	24	10%
独自教材・その他	61	25%
合計	241	100%

3 中級日本語教育において考慮されるべき点

3-1 技能を統合して場面・文脈に自然なコミュニケーションをする

平成12年度補助事業研究「留学生・就学生に日本語コミュニケーション能力を涵養する」においてコミュニケーションが場面、文脈に拘束されていることを取り上げた。初級の教室活動において、ただ文型を文型として教えるのではなく、その文型をどのように生きた文にするのか、その文が最も自然に発話される場面はどういった場面かを考えることの重要性を述べた。また文の意味をはじめから決まったものとして捉えるのではなく、「いま、ここで」を大切にし、双方向でコミュニケーションを作り上げているという会話分析的視点も取り上げた。このような基本的な考え方を基本として、中級においてさらに何が考慮されなければならないかを考察していきたい。

中級における場面の持つ意味はより多義的なものとなる。場面によってその発話の持つ意味が違ってくるのは当然だが、中級においては初級よりもさらにコミュニケーションが場面・文脈に依存してくる。中級というと、まず機能語や文末表現が挙げられ、それらを覚え使えるようになることが中級の教室活動の柱であるかのような教育が行われている。

5課<使いましょう>A-1

例 A:「食事のときは、話をしないものです。」

B:「いいえ、話をしながら、楽しくたべるものです。」

このような会話はどんな場面で、どんな文脈で使われるのだろうか。この練習で「～ものだ」の使い方が分かり、運用できるようになるとは考えにくい。《学生寮で何人かが楽しそうに話しながら食事をしている。その声のうるささに耐えかねて、ある学生がこのように「自分の見解」を述べた。それに対して、話しながら食事をしていたグループの一人が「いいえ、話をしながら、楽しく食べるものです。」と答えた。》上記の会話に関して言えばこのような場面・文脈が考えられる。つまり、ある種「けんか腰」の会話を教えることになってしまう。「～ものだ」という文型があり、その意味を伝え、文を作り、会話を作成しても、ただ「～ものだ」という文型を覚えたにすぎないことになってしまう。「文型が作れた=文型が使えた」ではないのだ。会話の形を取ればそれでコミュニケーション能力を育成するための授業が行えるわけではない。中級においては初級よりさらに「他者との関係性を重視した場の重要性」が大切になってくる。

5番 A:「日本酒は、あたたかくして飲むものです。」

B:「いいえ、_____」

Aの答えとしてのBの答えを文法的に正しい文で書き入れることはやさしい。しかし、このような会話を、どんな時に、誰とするか教師がこの会話の当事者となって考えてみると、なかなか適切な場面、人間関係を思い浮かべることはできない。更に相手との関係性を考えながら、声を出して(イントネーションなどを十分に考えるという意味での「声を出す」である。)この会話練

習をやってみると、「ものだ=自分の見解を述べる」という文型の導入・練習の持つ問題点が幾つも見えてくる。

A-2は、感嘆・感慨の「ものだ」の練習である。

例:「トマトの皮のような小さいことでもいろいろ違うものですね。」

これもA-1と同じように場面・文脈がない。しかもこれでは「ものだ」の持つ意味が伝わりにくい。「へえ、そうなんですか。トマトの皮のような、こんな小さなことでもいろいろ違うもんなんですねえ。」こういった音声面での練習やフィラー、終助詞などの使い方の練習も、「ものだ」の担っている意味を学生に正しく伝えるためには必要であろう。

3-2 言い換え能力・まとめ能力を身につける

中級においてはトピックシラバスが取られ、話題と機能が重視される傾向がある。ここで問題になるのが、トピックで話をしていれば会話能力が身についているような錯覚に陥りやすいということである。トピック型教材・指導の持つ問題点に目を向けることで、その指導法の持つ利点を生かす学習活動をしていきたい。

学習者は学習対象の言語を用いてコミュニケーションしている時に、相手の言っていることが理解できなかったり、自分の言いたいことが上手に伝えられなかつたりする時には、自然にそれまでに習得した文法や語彙をフル稼働させて、より相手に理解可能な言い換えて相手の言いたいことを確かめたり、自分の考えを伝えたりしているのではないだろうか。この言い換えを中級において十分に習得することによって、上級への橋渡しが円滑に行われるようになる。村松(1998)はコミュニケーションを態度、能力、知識の総合された力だと考え、協働的態度、対話能力、人間関係維持能力に加え、コミュニケーション過程自体を管理するメタコミュニケーション能力を挙げている。これはコミュニケーションそのものを客観的に自己モニターし、どのようにして有機的にコミュニケーションを行っていくか調整していく能力である。

言い換え能力と同様に、まとめ能力も中級から積極的に取り組むことが求められる。談話は文の羅列レベルのものから、段落、さらには複段落に到るものまである。段落構成ができるためには、このまとめる能力が必須となってくる。初級では単語にはじまり、文を作ること、初級相応の接続詞を使って文と文を結ぶこと、ある程度の長さを持った意味の通る文のまとめを作ることなどを学ぶ。中級ではさらに適切な接続詞、接続助詞の使用、文脈指示語、話し手が自分の意見や主張などを談話や文章にすることなどがまとめる能力として必要になってくる。まとめる能力とは会話においてだけではなく、すべての技能において要求される重要な能力であり、上級への橋渡しとして中級で十分に習得されることが求められる。

3-3 コミュニケーション・ストラテジーを身につける

コミュニケーションの過程において、コミュニケーション能力の不足や場面の制約などの理由でコミュニケーションがうまくいかなかった時に補足、補整する能力をコミュニケーション・ス

トラテジーと言う。3-2で述べた「言い換え能力」もその一つである。学習者が用いると思われるコミュニケーション・ストラテジーを分類した最初の一人である Tarone(1978)は①言い換え、②遠まわしな表現、③転移、④回避の4つをあげている。さらに①言い換えを近似表現と造語、③転移を直訳、言語交換、援助の要求と身ぶり言語の4項目、④回避を話題の回避とメッセージの中止の下位項目に分類している。橋内(1999)は「言い換え」「借用」「回避」の3つを挙げ、「言い換え」と「借用」は手持ちの表現形式を何とか操作して伝えようとするストラテジーであり、「回避」は伝える表現内容を変更するか放棄するかという消極的なストラテジーとしている。コミュニケーション能力を涵養するには、文法能力、社会言語能力、談話能力といった広義での言語的知識が必要であり、さらにそれを補うものとしてのストラテジー能力が不可欠の要素である。これを充分考慮に入れて教室活動を行ってこそ相互行為としてのコミュニケーションを成立できるようになるのである。

ストラテジー能力は、自分自身の思考、知識等がどういう状態にあるかを把握しようとする認知過程を意味するメタ認知(Metacognition)の一つである。メタ認知は換言すれば、認知活動を監視・評価するモニタリングであり、学習者が自らの認識力を調整する能力である。

3-4 クリティカル・シンキングを養う

クリティカル・シンキング(Critical Thinking)を日本語に訳すと「批判的思考」となる。しかし、批判という言葉に含まれる意味・語感から「相手や物事を批判する考え方」という誤解が生じる恐れがある。ここでいうクリティカル・シンキングとは、書かれたものや言説を鵜呑みにせず、ものごとを深く捉え考えるという意味で使用している。中級において重要な発表力、裏づけのある意見を言う力、論理立てて話したり書いたりする能力には、このクリティカル・シンキングが大切な要素である。

日本語の中で言葉としてはやさしいし、日常的によく耳にする言葉なのに、使い方が難しいものの一つとして「あなた」(英語のyouに当たる)や「こんにちは」がある。これらの言葉は教師にとって普通自然に使っているので適正に用いられなかった際に生じる主として感情的な問題についてあまり真剣に考えずに、学習者には「このような時には‘あなた’は使われません」程度にしか触れていないことが多いようである。学習者は新しい知識としてそのまま受け取る場合もあるが、母語とその使用があまりに違うので、なぜそうなのかと教師に質問する場合もある。その時教師が「日本語ではなのだから、そう見えなさい」式で質問に答え(られ)なかつたり、その時点で初めて問題に気付いたりする。クリティカル・シンキングは学習者にとってもちろん大切なことであるが、むしろ教師にとって自明である教師の母語を教授する際に心しなければならないことであろう。

5 課<使いましょう>B

ここは有名だから、_____ のは当たり前だ。

「当たり前」とは誰が何をさして言っているのか。さまざまな学習者が集まる教室活動において

みんなに「当たり前」であることは多くはない。書かれてあることをただそのまま受け容れるのではなく、常に意識的に考えていくことが重要である。自明だと思っていること、当然のことと言われていることに疑問を感じるところから問い合わせは生まれる。なぜこうなっているのだろう?という疑問が物事を深く考える原動力になるのである。

学習理論においては、認知構造に何らかの変化をもたらすような学習を深い学習とし、試験のためにただ覚えるといった学習を浅い学習としている。すなわち学習者の認知構造に変化が生じるということは、学習者が自分でクリティカルに思考し、ある価値体系を持つことを言う。

こういった学習活動を進めていくに当たって、中級でクリティカル・シンキング能力に気付き、そのような思考力で学習を行うことがより重要になってくる。

4 研究の方法

4-1 初級・上級との違いを認識した中級の練習を考える

3章で中級日本語教育において考慮されるべき点をあげながら、中級の教室活動の在り方を見てきた。本章においては中級では何を学び、上級へとどのようにつなげていくのか、初級・上級とは異なる中級の練習とはいかなるものなのかを考えてみたい。

4-1-1 文脈・場面・状況を明確にした練習

中級における発話は文脈・場面に依存する度合いがより強くなる。しかし、教科書の<使いましょう>には、ある意味では初級で強調した場面が考慮されていない場合が見られる。

4課<使いましょう>A-1

1番 A：友達がねつがあるので仕事に行くと言ったらどうしますか。

B : _____ せます。

この答えは単なる文型練習ならば「休ませます」「まず病院に行かせます」といった答えが入る。しかし、実際にこのような答え方をするであろうか。友達に対しては「休ませます」という使役を使うのではなく、「休むようにいいます」といった答え方をすると考えられる。場面・文脈を特定せずにABの会話で使役練習をしても、それは単なる文型練習になってしまふ。

20課<使いましょう>A

2番 うれしいことに、_____に対する人々の反応は意外によいものだった。

この練習では「～ことに」「～に対する」「意外に」と3つの要素が入っているので、一見初級とは違った統合的な文型の練習のように見えるが、実は単なる文型練習になってしまっている。どういう状況で、誰が何のためにこのような発話をするのかといったことが見えてこないために、学習者が自身の学習として捉えにくくなっている。中級からは状況性・関連性を考慮した練習を多く行うことによって、上級で必要とされる複雑なコミュニケーションができる能力を育成していく段階であると考える。

4-1-2 談話としての結束性を考えた練習

初級においては、文単位での結束性が学習課題としてあった。しかし、中級においては会話／談話としての結束性をも考えなければならない。

A : キムと申しますが、田中先生いらっしゃいますか。

B : 今、出かけていますが。

A : そうですか。何時ごろお帰りですか。

B : あの、今お風呂なんです。

この答えに関しては、最後のABの会話だけを取り出せば問題がある文である。しかし、ABの4つの発話のつながりを考えれば、何も問題がない1つの会話／談話となっている。それは、この4つの発話が1つの談話として結束性があるからである。こういった結束性に目を向けて、ただテーマについて語るといった「ディベート」「発表」「スピーチ」等を数多くこなしても、コミュニケーション能力の育成につながりにくい。初級の学習活動においても、文の結束性は重要であるが、中級では特に文・談話の結束性は重要度を増す。上級になると、より高度な文章作成、スピーチなどが要求されることになる。その基礎を作るためにも、中級においてただテーマに沿って会話をすることで自然にコミュニケーション能力が育成されると考えるのではなく、その能力を育成するために個々の重要な要素をきちんと教師が把握し、その1つとして談話の結束性という視点を練習に取り入れていきたい。

4-1-3 中級にふさわしい内容を伴った練習

5課の本文では、トマトの皮やきゅうりの皮をむくむかないということから「こんな小さいことでも、いろいろ違うものね」という話にもついていている。ただ文型を入れるために作られたような文章に思える。異文化ということを考えるのであれば、皮のむき方ではなく、せめて茶碗の持ち方、ご飯の食べ方、食事の際の挨拶等より意味のあるものを取り上げたい。初級ではじめに文型があり、それを導入・定着させるための本文、練習が普通だったが、中級ではより場面や文脈にコミュニケーションが依存していることを考え、コミュニケーションの内容も学習者にとって面白く、自分の意見が述べられる内容を提示したい。<使いましょう>においても学習者にとって内容的に意味のある練習を考えたい。

10課<使いましょう>

B 5番 A : 息子は来年大学だし、下の子はまだ小さいし、妻も・・・

B : つまり _____ ということですね。

D 2番 子供が5人もいると _____ やら _____ やらで、家の中は大騒ぎです。

12課<使いましょう>

B 1番 子供にとって、夏休みは _____ ものです。

留学生にとっては、こういった練習は単なる「練習のための練習」と感じられる。

4-1-4 書くことと話すことの連携と違いを意識した練習

中級における書き言葉とはいつても何をいうのであろうか。「中級から学ぶ日本語」の<書きましょう>を見てみると、書き言葉と話し言葉が混在しているのが目につく。

12課<書きましょう>A

_____という話を聞いていると、_____がいかに_____かが分かるんです。

「分かるんです」は明らかに話し言葉である。<書きましょう>の役割と目的に関して「教師用マニュアル」にあるテキスト概要には「本文中に出た、書き言葉に属すると思われる言葉、あるいは、文の形を練習する。」と記されている。しかし、これはあくまで話し言葉であり、<使いましょう>とあまり違いがない。

初級においては、話し言葉=書き言葉として学習した。しかし、中級では話し言葉をそのまま書くことから少しずつ脱して、書く時に多用される語彙や、書く時に特有の文末表現、文体の統一、書く時のですます体とだ体の使い分け等、いわゆる「書き言葉」的な要素を意識的に学習し、レポート・意見文を書くといった上級の学習活動へとつなげる必要がある。

5課<本文>

食べてみると、思っていたよりおいしかったということもよくあるのである。

突然、「のである」が出てくる。しかし、5課の<書きましょう>A-1には、
_____しているとき、一人が_____. すると、ほかの人が_____ものだと言った。

のような練習しかなく、「のである」の練習を学習しないまま終わってしまう。そのため「行くである」のような文法的な間違いをしたり、「私は〇〇である」のような文を作ることになる。

12課<本文>

~ユニークな試みである

~紹介するのである

~とても楽しい一時なのである

また、語彙の使い方も書き言葉と話し言葉では違ってくる。「感涙」という言葉は書き言葉であり、話し言葉としては「感涙にむせぶ」とは言わず、話し言葉としては「感激して泣いた」となる。こういった点も教師自身が注意して指導にあたらなければならぬ。

引用文も重要な中級での学習項目といえる。初級では直接話法でそのまま伝えていればよかつたが、中級においては間接話法が適切に使えるかことが特に書き言葉において求められる。

大学の学習活動においては、レポートを書いたり、読んだものをまとめて書くとい

うことが求められる。中級の段階から「まとめて書く」という練習を十分にしておくことも必要である。

4-1-5 語彙教育を重視した練習

中級日本語教育の大きな柱の一つは語彙教育である。初級でも同じことが言えるが、初級と異なる中級の特徴として、①漢語系の語彙が多くなる、②多義性が強くなる、③語彙依存度が高くなる、④社会文化的知識が要求される、⑤文脈依存度が高くなる、といった点があげられる。

中級になると語彙、特に漢語系の語彙が急増する。そのことから漢語を多く使っていれば中級で書き言葉が使えるかのように考えてしまう傾向がある。しかし、中級における語彙教育の重要な点は、言葉の持つ多義性、文脈によって言葉の持つ意味の違いなどを知って、使えるようになることである。「中級から学ぶ日本語」を見ると、各課のタイトルは和語を使い、しかもひらがなで記されている。2課「つたえる」、9課「あらわす」を漢語で置き換えれば、「伝達する」「表現する」となる。しかし、「あらわす」には「表現する」ではとても表しきれない多くのものが含まれている。中級語彙教育とは、初級で学んだ語彙の多義性を考えながら、上級での漢語系語彙学習の基礎を作ることである。

語彙学習は、ただ言葉を取り出して暗記していくことではない。またそれを使って文が作れればよいというものでもない。常に場面・文脈を考えながら学習を進めていきたい。練習としては同じ意味の語彙をさまざまな場面で使用することによって、また学習者自身の生活の中から自分自身に最も適切な語彙を、多くの似たような語彙の中から選び出し、そこに自身の感覚にもとづいた意味を込めることによってより生きた語彙教育ができると考える。

4-2 他者との関係性を重視した練習を考える

コミュニケーション能力を春原(2001)は「他者とかかわる能力と、十全な成員性と参加の可能性を追及するコミュニティー運営力を核とする。コミュニティーの運営力とは、擦り合わせ(negotiation)をする能力、痛み分け、泣き寝入りや引きこもる人をつくらない力と姿勢である。」と述べている。

A: 食べる?

B: 食べない。

A: 本当に食べないの?

B: 結構です。

このような会話を聞いた場合、日本人の場合AB二人の関係がどんなものであって、どういう状況なのか察しがつく。それは文体が急に改まったことから相手が怒っていることが分かる

からである。しかし母語話者に分かることが、学習者にはつかみとれない。中級からはこういった状況性・関係性を考慮に入れた練習が重要になってくる。

4課<使いましょう> A-1

3番 A : _____。

B : もう少し考えさせてください。

5番 A : _____。

B : じゃあ、もう一度説明させていただけませんか。

3番は仕事を頼んだ場面であろうか。大役を頼み、逡巡している場面とも考えられる。場面・文脈なくしては練習の意味が失われてしまう。5番においてはAとBの人間関係が明確でない。客と店員との関係ならば、Bのような言い方は実際にはあり得ない。「私の説明が足りなかつたようで申し訳ありませんが」といった言葉が入らなければ、生きた会話にはならない。つまり誰が、何のために、どんな文脈でといったことを念頭においた練習を考えなければならない。上の例のように中級で用いられる使役は待遇表現として使われることが非常に多い。使役の形の文型練習をするだけではなく、常に他者との関係性を考えて練習をしなければならない。初級よりもさらに一步進んだ状況性・関係性を考慮した練習を組み立てることが重要である。

5 「テーマ別中級から学ぶ日本語」を使った教室活動

5-1 <いっしょに考えましょう>を考える

テキスト概要には<いっしょに考えましょう>は「課のテーマを説明する目的で、学生たちに質問をする。一問一問扱う方法と、学生に興味のある質問を選ばせて意見を述べさせす方法とがある。」(p. 4)と書かれている。本文を読む前にテーマに関する質問をしながら、自然に本文への導入が出来る。また同時に、新しい語彙導入への活用が可能である。こういった目的のためには、質問をそのまま取り上げるだけではなく、違った活用方法も考えられる。

第6課 「あそぶ」

- あなたは暇なとき、どんなことをしますか。
- 「遊び」という言葉を聞いて、何を考えますか。
- 小さいとき、どんなことをして遊びましたか。
- 何をしているときが一番楽しいですか。
- あなたの国ではおとなはどんなことをして遊んでいますか。

これをそのまま聞くのではなく、特別活動に結びつける。

①「あなたのことを教えてくださいペアワーク」

クラスの中で2人ずつペアになり、1~4の質問を聞きあう。そのあと、発表をする。

②「日本人の生活を知ろうインタビュー」

質問の5は日本と自分の国との比較の意味で友達、アルバイト先の店長など日本人にインタビューしてくる宿題を出す。日本人の知人・友人がいない場合には、学内の他の学生に聞いたり、近くの大学に出かけていてキャンパスでインタビューをするといった「分からぬ時のストラテジー」も身につけさせたい。

第7課 「いう」

- 日本語できれいだと思う言葉を五つあげてください。
- 日本語できらいな言葉を五つあげてください。
- どんなことを言われたとき、うれしかったですか。
- どんなことを言われたとき、嫌な気持ちがしましたか。
- 人と話すとき、どんなことに注意して話していますか。

それぞれ学生に聞いていても、様々な答えが出て面白い。しかし、クラスを一つのコミュニティと考え、相互交流を図る場と考えた場合、もっと違った形の導入が考えられる。

①「誰のシート？」

- 1、紙を配って「きれいな言葉」を5つ、「きらしない言葉」を各自3つ書く。
- 2、紙を集めて、教師が読み上げる。それは誰が書いたシートかをみんなで当てる。
- 3、書いた人が分かったら、「どうしてその人だと思ったか」を言う。
- 4、最後に、書いた学生に何故その言葉がきれいだと思うのか、きらいなのか理由を聞く。

(実際に学生が書いたシートより)

氏名: _____

1. 日本語できれいだと思う言葉を5つあげてください。

1	愛
2	やわらかい
3	恋人
4	かわいい
5	海

2. 日本語で嫌いな言葉を3つあげてください。

1	えらい
2	ばか
3	欠席

氏名: _____

1. 日本語できれいだと思う言葉を5つあげてください。

1	叶う
2	一生懸命
3	根性
4	たどり着く
5	咲く

2. 日本語で嫌いな言葉を3つあげてください。

1	畜生
2	ばか
3	ごめんなさい

②「駅でメモして来よう」

駅のアナウンスにはどんなものがあるか聞いて来る。(宿題として事前に提示)

「まもなく1番線に三鷹行きが参ります。黄色い線の内側までお下がりください。」

「黄色い線の内側で待つ」ということに驚きを見せる学生もいる。中国や韓国では「線の外側でお待ちください」と構内アナウンスが流れる。そのためにはなぜ日本人はわざわざホームの端、線路側で電車を待つのだろうかと驚く。つまり、日本語で「線の内側」とは自分の立っているほうの領域を指し、中国語や韓国語では電車がいるほうから見ているのである。こういったことからそれぞれの文化・物の考え方に関してクラスでのディスカッションが生まれる。

第12課 「あつまる」

1. あなたの近くに一人で暮らしているお年寄りはいますか。
2. お年寄りはどんなことに困っているでしょうか。
3. 若い人は年を取った人にどんなことをしてあげられますか。
4. あなたは年を取ったら、だれと一緒に暮らしたいですか。
5. お年寄りから教えてもらえることは、どんなことですか。

この問い合わせの持つ問題点を考えてみたい。「お年寄りはどんなことに困っている」という前提が見える。また「～してあげる」という表現に「お年寄りには何かをしてあげるもの」といった考えが見え隠れする。今、教室で「年を取ったらだれと一緒に暮らしたいですか」と学習者に問いかげることに、どれほどの意味があるだろうか。そこで次のような形を提案したい。

①「地域センターの集まりでのインタビュー」

近くの地域センターに行って、お年寄りの活動に一緒に参加する。それぞれの地域にはセンターがあり、いろいろなサークルがある。その中でお年寄りのグループの活動・集まりに参加させてもらい、さまざまな話を聞いてくる。クラスでは、日本のお年寄りの生き方・考え方・暮らし方などについてそれが感じたことを発表し、話し合いをする。

②地域社会に住むお年寄りによるビジター・セッション

第18課 「かこむ」

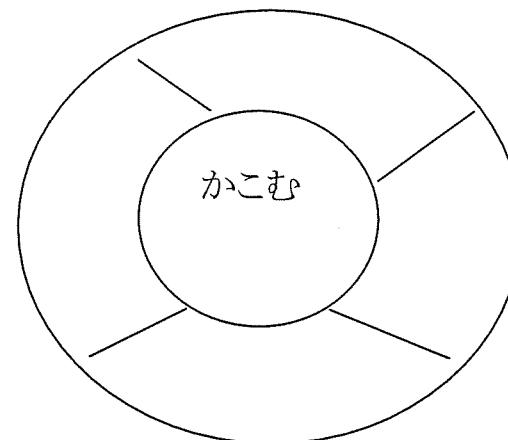
1. あなたの家で、一番好きな場所はどこですか。
2. 家族の集まる部屋にはどんなものが置いてありますか。
3. 家族みんなが集まるのはどんなときですか。
4. 家族みんなで楽しむ趣味などがありますか。
5. 家族と一緒にいたくないと思うことがありますか。それはどんなときですか。

①「連想ゲームで仲間を知る」→「日本人へのインタビュー」

家族の団欒についてくいっしょに考えましょうを通して出していくのがねらいだと考えられる。しかし、この5つの質問を順番にしていくのではなく、むしろトピックから連想させる形で授業を組み立ててみた。仲間を知り、新情報を知る楽しさを通して、語彙を導入していくことが狙いである。

18課のトピックは「かこむ」である。この言葉から何を連想するか、5つずつ下記のペーパーに書かせる。その答えとしては「家族」「食卓」「あたたかい」「笑い」といった言葉が提示された。それらの言葉を使って、<新しい言葉>に出されている語彙を自然に導入していく。「団欒」「和やかだ」「ほのぼのと」「こたつ」「結びつき」など多くの言葉を学ぶことが出来る。

この授業の延長として「日本人へのインタビュー」という活動がある。同じような連想シートを用意し、その下にメモ欄を作り、「なぜそれを連想したのか」ということを質問し、記入していくところまでを課題とする。後日、教室でそれぞれ発表する。



②「語彙導入のための会話」

5つの質問文を教師が一つずつ聞いていく形ではなく、学生とのやりとりの中で結果としてこれらのことを見ることを質問するという形を取る。

教師:なんとなく家族が集まっている時間ってありますか。

学生:ええ、あります、あります。

教師:それって、どんな時ですか。

学生:う~ん、みんなが好きなテレビを見ている時とか。

教師:それはどんな部屋?

学生:ええと、みんな集まる部屋、テレビがあって、テーブルがあって、そこでご飯食べたり…。

教師:ほかに何がある?

学生:ソファーとかピアノとか。

教師:ああ、居間ですね。リビングルームとも言いますよね。

教師:例えばどんな番組?

学生:ドラマ。(続く)

教師:チンさんも家族がいつのまにか一つの部屋に集まって、一緒にテレビを見ることがありますか。

学生:私は自分の部屋でCDを聞いたり、テレビを見たりするのが好きなんです。

教師:自分の部屋で一人でテレビを?

学生:はい。自分の部屋が一番すきなんです。

教師:チンさんは個室があるんですね。自分の部屋が。

第20課 「しらせる」

1. あなたはテレビが好きですか。
2. 毎日、どのくらいテレビを見ますか。どんな番組をよく見ますか。
3. テレビで見たり聞いたりしたことについて友達と話しますか。
4. どんなとき、テレビは役に立つと思いますか。
5. 最近、テレビでどんなニュースを見ましたか。

①「ワイドショーと一緒に見よう」

あるタレントの事件(騒ぎ逃げ事件など)を取り上げているワイドショーを見る。その後、同じ事件を取り上げた新聞記事・雑誌記事を読んでみる。報道媒体によってニュースの伝わり方の違い、テレビの持つ意味・怖さなどを学生自身から意見を出す。これは本文終了後の「話ししよう」につなげて学習することが出来る。

②「キャスターになろう」

一つの事実についてニュースを作る。それぞれがニュースキャスターになったつもりで書く。

事実: 寝に泥棒が入る。

現金20万円を盗まれる。

友達が

それから一つの事実が、それぞれの人のフィルターを通して語られることで、違ったものになってくることを自分自身で体得する。これによって本文へのつながりが出てくる。

③「各国テレビ事情」話し合い

4人1班になり、話し合いを行う。どんなテレビ番組……

「あなたの国でよくないと思うことはどんなことですか。」(第四課4)

5-2 <使いましょう>を考える

<使いましょう>では、新しい文法項目の導入のセクションとして位置付けられている。練習問題には二種類あり、一文中にある下線部分に答えを代入するものとABの二者による会話文中の下線部分に答えを代入するものがある。その練習方法は「できるだけ口頭で成されるのが望ましい」。下線部に代入する答えは「一つに限らずいろいろな答えが引き出せるように考えられている」ので、授業の中では、教師は下線部に代入することに気をとられ、代入した一文がどんな会話の場面で行われ、どんな二者関係で会話が行われているのかに充分注意を払うことを忘れがちである。

運用力の向上のためには、教師は授業の中で現実に即した会話を考える、適切な代入練習を考える必要がある。

5-2-1 現実に即した会話を考える

4課の<使いましょう>A-2では、

A: きようは八時まで仕事をしてくれますか。

B: すみません。きようはつかれているので、帰らせてください。

という例が挙げられている。これは、「会社」「アルバイト先」という場面が考えられていると思うが、仕事をしてくれないかと頼まれた際に、「疲れている」という理由を言って仕事を断ることが現実にあるだろうか。むしろ、

店長：きようは八時まで仕事をしてくれますか。

A: あの…すみませんが、きようは早く帰らせてくださいませんか。

と、「あの…」とフィラーを用いて断りを言い、理由を最初からはつきり言わないことが多い。

練習問題の4番では

A: _____。

B: いいえ、この仕事は私にやらせてください。

とあるが、このBが「いいえ」といえるABの二者の関係はどんなものか分からぬ。

同じことが5番でも言える。

A: _____。

B: じゃあ、もう一度説明させていただけませんか。

お客様と店の人の間で行われる会話では、「申し訳ありませんが」や「私の説明が足りなかつたので」のように相手が分からなかつたことに対する侘びる気持ちをあらわすことばが付け加えられる。

ここでの練習では会話が行われている場面と二者関係が特定されていない。そのため、代入したあとの会話文は不自然になってしまう。その不自然さをなくすために、それらを特定し、フィラーを挿入した会話練習を考えてみた。

4課 <使いましょう>A-2 下線部を考える

1(場面：レストランで。いつもあなたBはAさんにごちそうになっているので、今日はごちそうしたいと思っています。)

レストランの人：お会計は？

A: いっしょにお願いします。

B: あつ、Aさん、きようは私にはらわせてください。

2(場面：あなたがアルバイトをしているレストランで、店長に仕事を頼されます。あなたは日曜日休みたいと思っています。)

A: 今度の日曜日、仕事できますか。

B: すみません、日曜日だけは_____。

3(場面：先週、学校の先生に日本語の通訳をしてもらいたいと言われました。あなたは返事を決めていません。)

先生：Aさん、先週の話、考えてくれましたか？

A: あつ、もう少し_____。

4(場面：あなたが仕事をしている上司が、他の人に仕事を頼みました。あなたはその仕事をやりたいと思っています。)

A: この仕事はCさんに頼みましたよ。

B: あの～、この仕事は私に_____。

5(場面：あなたAは今お客様に商品の説明をしています。しかし、お客様Bはよく分からなかつたような顔をしています。)

A: いかがですか。

B: 今の説明、よくわからなかつたんですけど…

A: では、もう一度_____。

5-2-2 適切な代入練習を考える

5課 A-1 で取り上げられている「ものだ」は「規範・理想の姿」の意味であるが、次のような例が挙げられている。

A: 「食事のときは、話をしないものです。」

B: 「いいえ、話をしながら、楽しく食べるものです。」

この部分だけを聞いた人はAとBがけんかを始めたのではないかと思うだろう。教師用マニュアル(P.13)ではこの「ものだ」を「自分の考えをやや強引に主張する表現方法の例ともなっている」と説明している。日本語を勉強している多くの学習者がこの「ものだ」をいつ使うのかと考えた場合、ここでの練習として挙げられている会話形式での代入練習がふさわしいだろうか。最初から、ディベートのような自分の考えを強く主張する場が設定されていたら適当であるが、そのような設定がなくA、Bの会話文で使用されることから考えてみると、「ものです」だけではなく「と思います」「ではありませんか」「と言われています」や終助詞「よ」などを一緒に使って、主張の強さをやわらげる練習が必要ではないかと思われる。ここでは、A-1の会話文を応用した長めの談話を考えてみた。(①)

一方、第12課<使いましょう>Cで扱われている「原因・理由」の「もの」では、短文作成練習となっている。

急いでいるものですから、お先に失礼します。

ここでは場面が特定されていないため、学生にとっては「いつ」使うかがとても難しいのではないだろうか。パーティーの途中で帰ろうとしているBとそれを呼び止めたAの会話を考えてみると

A: あっ、Bさん、もう帰るんですか。

B: ええ、ごめんなさい。ちょっと急いでいるものですから…

A: そうですか。お気をつけて。

というような談話の中で用いられ、理由の全部を言わなくても、「ものですから」を使うことで、話し手は聞き手にその行為ができないことを伝えられることがわかる。このことを意識して、Cの短文作成練習から発展させ、長い談話を考える代入練習例を考えてみた。(②)

①5課 <使いましょう>A-1

ABの会話の下線部を考える練習、()は参考用の答え

1 (A:母親、B:子ども、二人は一緒にすきやきを食べるところです)

A: (今、Bがなべの中に野菜を入れたのを見て)あっ！

B: えっ、何。

A: すきやきは肉から先に入れるものですよ。

B: えっ、そう。私は野菜からいれるものだ。
(←野菜からいれるものだ)

2 (A、B:友達、二人は一緒に日本酒を飲んでいます。)

A: ん？これ冷酒？

B: うん、どう？

A: 日本酒は、あたたかくして飲むものじゃない

B: えっ、違うよ。よ。(←冷たくして飲むものです)

A: えっ、そう…。

3 (A:姉 B:妹)

A: おやすみなさい。

B: あれ？おふろ、入らないの。

A: うん。

B: おふろは夜寝る前に入るものだと思うけど…

A: えっ、そう。と思うよ。
(←私は、お風呂は朝起きてから入るものだ)

4 (ABCは同じサークルに入っている学生。CはBより学年が上。)

AはBとCにおみやげをあげます。)

A: はい、おみやげ。(おみやげをBとCにあげる)

B: どうもありがとう。(プレゼントをあける) わあ～、きれいなカップ！

C: Bさん、プレゼントは、くれた人の前ですぐあけないものですよ。

B: えっ。

C: よ。(←後でゆっくりプレゼントを見るものです)

B: へえ～、でも、私の国ではと言われているんですよ。
(←すぐあけてお礼をいうものだ)

②12課 <使いましょう>C

1(あなたは歯医者さんに甘いものを食べてはいけないと言われていますが、やめることができます。)

歯医者さん：Aさん、甘いものを食べましたね。

A: あっ、すみません。好きなものですから…

歯医者さん：食べると、また歯が悪くなりますよ。

A: はい、気をつけます。

2(さつきからBさんはずっと本を読んでいます。)

A: Bさん、

B: ……

A: Bさん、Bさん！

B: …あっ、何ですか。

A: さつきからずっと呼んでいたんですよ。

B: あっ、ごめんなさい。この本あまり面白いものだから…

3(Aさんは久しぶりに友人のBさんに電話をかけました。)

A: もしもし、Bさん。

B: あっ、Aさん、久しぶり。どうして電話してくれなかつたの。

A: ごめん。最近ちょっと忙しかったものだから。

B: そう。学校の勉強、大変。

A: うん、宿題もたくさんあるし、テストもたくさんあって…

B: 大変そうだね。体に気をつけてね。

4(Aさんは夜12時にBさんの家に電話をかけました。)

A: Bさん、遅い時間にごめんなさい。

B: うん、大丈夫だけど、何かあったの。

A: Cさんの電話番号知ってる？いろいろな人に聞いたんだけど、どうしても分からなかったものだから。

B: 知っているよ。

A: あ～、よかった。教えてもらえる？

5-3 <まとめましょう>を考える

文章を読んでまとめるときには、読者には何かについて調べるというような「目的」があり、その「目的」に合わせてまとめることが多い。またデータを集めたときなどには、それを文章ではなく、表やグラフにまとめることもある。文を読んでただ全体を要約することよりも、「目的」に合わせてまとめことの方が実際的であり、自分で考えながらまとめるので、その文章に対するクリティカル・シンキングを養うことにもつながる。

しかし、テキスト中の<まとめましょう>は、語彙の接続の形を間違えなければ、考えることなくまとめの文が一様に完成できるようになっている。与えられた空欄を埋めるだけになってしまって、教科書の雑形を使っているだけでは、まとめる能力はなかなか身につかない。

自分の力でまとめる練習として「文の内容を単純に要約する」「目的に合わせてまとめる」「自分の意見をまとめる」の3つの点から<まとめましょう>の活動を考えた。

5-3-1 文章全体を単純にまとめる

第8課 「かざる」

長い文章を短くまとめるのは難しい作業だが、そのために「キーワード」「キーセンテンス」を探することは一つの方法である。通常は、例が多く出されているところや、繰り返して述べられているところから「キーワード」が見つかることが多い。「キーワード」「キーセンテンス」を探して、どうしてそう思うのかクラスで話し合いながら、長い文章をまとめてみる。

①クラス全体で「キーワード」「キーセンテンス」を探す

1. 8課の本文を読んで、「キーワード」だと思う言葉と「キーセンテンス」だと思うところを探してみましょう。また、どうしてそう思うのか話し合いましょう。

2. 「キーワード」の使われているセンテンスは「キーセンテンス」になりますか。みんなで考えてみましょう。

3. 筆者の一番いいたいことはどこに書かれていますか。探してみましょう。

4. 1, 3で探した言葉や、文をなるべく多く使って、本文の内容を表す短い文章を書いてみましょう。

5-3-2 目的に合わせてまとめる

第2課 「つたえる」

①招待状を読んで予定をメモする

2課の招待状を読んで、予定をメモしてください。

「いつ」「どこで」「何が」ありますか。書いてください。

② 話を聞いて予定をメモする

来週、学校の遠足があります。遠足の予定について説明を聞いて、必要なことをメモしましょう。

1. どんなことが「必要なこと」か 日本語で考えておきましょう。
2. 今、来週の遠足についての説明会が行われています。予定を聞いて、必要なことをメモしてください。

3. 行き先、集合場所・時間、出発時間、持ち物、費用、解散場所・時間など、隣の人とチェックしてみましょう。

遠足説明会での話

えー、みなさん、聞いてください。いいですか。5月31日、来週の金曜日は遠足です。

富士山に登ります。寒いですから、必ず暖かい上着を持っていってください。お昼は 富士山の近くのレストランで食べますので、お弁当はいりません。お菓子とか飲み物は、自由です。もって行っても行かなくてもどちらでもかまいません。でも、アルコールはダメですよ。遠足は授業ですから…いいですね。

じゃ、時間を言います。集合は、朝8時です。学校の門の前に集まってください。出発は8時15分です。バスが出てしましますから、遅れたら遠足に行けませんよ。学校に帰ってくるのは、6時の予定です。でも少し遅くなるかもしれません。学校で解散です。遠足のお金は、3,000円です。今週の金曜日までに事務室にもって行ってください。遠足の日は、お金はあまり持っていないかなくても大丈夫です… あ、富士山でお土産を買いたい人は、2~3,000円ぐらい持っていたほうがいいかもしれません。

第17課 「わける」

あなたは、今 血液型と人の性格について調べています。

17課の本文を読んで、血液型と性格についてまとめてください。

血液型	性格
A	
B	
O	
AB	
気付いたこと、疑問点など	

この表をもとにアンケートを作り、実際はどうかまとめて発表するという活動にもつなげられる。

5-3-3 表やグラフの作成

第24課 「なおす」

<話しましょう><書きましょう>と関連付けた練習

<話しましょう>・<書きましょう>での活動で作ったアンケートの結果を、表やグラフにまとめてみましょう。

5-3-4 自分の意見をまとめる

第16課 「がんばる」

1. この課ではある日本人のサラリーマンの生活を紹介しています。このような忙しい生活についてどう思いますか。3~4人で話し合ってみましょう。

2. みんなの感想を書いてください。

3. 上の感想を参考にあなたの考えとなぜそのように考えるのかその理由をまとめて、200字以内で書いて下さい。

5-4 <話しましょう>を考える

テキスト概要によると、<話しましょう>は本文に対する反論（A）と、各課のテーマ全体にかかる質問（B）とに分かれています。クラスの学生同士で意見交換することを目的としている。しかし、意見の言い方（どのように同意や反論を行ったらいいのか）の練習は教師の裁量にまかされている。

実際に学生が「話す」場は教室内だけではない。「話す」場面を特定せずに、意見交換を形の上から練習しても、コミュニケーション能力を育成することは難しい。また、内容は、意見交換のほかに依頼、状況説明、交渉、面接など様々で、言葉の使い方も相手によって異なる。ここでは、意見交換の仕方の練習、さらに「話をする場」＝「場面、文脈の存在とそこで用いられる待遇表現を身に付ける場」であることを重視し、話すときの場と相手を意識した練習を付け加えてみた。

5-4-1 意見を言う

意見交換は、<話しましょう>の中心課題であり、テーマ関連語句を積極的に紹介し、学習者の語彙を増やすこともその目的になっている。しかし、語彙だけを増やしても、意見の言い方が分からなければ、学習者同士で意見交換することは難しい。

また「書く」ときと「話す」ときの文体の違いを押え、意識的に使い分けられるように<書きましょう>の文型を使って「話す」練習をすることを考えた。

第2課 「つたえる」

A 第2課を読んで、ある人が次のように言いました。あなたはどう思いますか。
「この招待状は、国際結婚をする二人が書いたものだから、これでもいいですが、私は、昔の人が考えて今まで伝えてきたことには、いろいろな意味があると思うので、決まった言葉や書き方などを、大切にするほうがいいと思います。」

この問いは、日本の習慣を前提として作られているので、この問い合わせ 자체が理解できない学習者もいる。自分の国や町について話すことは、日本語を使う必然性を伴った現実的な練習になりうるので、次のような活動も考えられる。

① 学習者の国や町の習慣を紹介する。

1.（教師側から）日本での結婚・結婚式の様子を紹介しながら、日本と異なることがあるかどうか問い合わせる。

例：結婚相手を自分で決められるかどうか。日本の恋愛結婚やお見合い結婚にあたるものはあるか。
結婚式への招待状の有無。招待状を受け取った人は、出欠の返事が必要かどうか。出席者は、招待状をもらった人だけか、どんな服を着ていくか。結婚する人は式でどんな衣装を着るか。

2. 皆さん知っている結婚式について話してください。

中級の学習を始めたばかりの学習者が、日本語で自分の意見や理由を言うのは難しいことが多い。①で結婚についていろいろ話したあとで、<話しましょう>のテーマに沿った形で同意や反論、その理由を言うためのロールプレイ練習を考えてみた。

② 同意、反論と、その理由を言うためのロールプレイ練習

Aさん、Bさん、Cさんになって、三人で話し合ってください。

ロールカード「Aさん」

意見：昔から決まった言葉や書き方をしたほうがいいと思います。

私の国では、結婚式の招待状を書くとき、昔から決まっている難しい言葉を使います。

結婚する人ではなく、両親が招待状を出します。

結婚式には、両親の友人や、あまり会ったことのない親戚の人たちもたくさん来ます。

両親の友人や、あまり会ったことのない親戚の人たちは、両親の名前は分かりますが、結婚する人たちの名前は知らない人が多いです。

ロールカード「Bさん」

意見：昔から決まった言葉や書き方をしたほうがいいと思います。

私の国では、結婚式の招待状を書くとき、昔から決まっている難しい言葉を使う人と、みんなに分かりやすい言葉を使う人がいます。

結婚する人たちが招待状を出すので、招待状に両親の名前は書きません。

結婚式には、結婚する人たちの友人だけではなく、両親の友人や、あまり会ったことのない親戚の人たちもたくさん来ます。

両親の友人や、親戚の人たちは、昔から決まっている難しい言葉の招待状のほうがいいという人が多いです。

ロールカード「Cさん」

意見：みんなに分かりやすい言葉を使って、結婚する人が招待状を出した方がいいと思います。

私の国では、結婚式の招待状を書くとき、みんなに分かりやすい言葉で書きます。

結婚することを決めたのは、結婚する人たちなので、両親は招待状を書きません。

結婚式には、親しい友人や、子供のころからよくしている親戚の人たちが来ます。

両親が結婚したときは、昔から決まっていた難しい言葉を使った招待状を出したと聞きました。

ロールプレイのやり方

1. クラスを ABC の 3 つのグループに分けて、グループごとにカードの語彙を確認する。
2. ABC の 3 人で一つのグループを作り、話し合ってみる。(ロールプレイをしながら、学習者たちが自分達のやり方や、自分自身の考えを自由に言い始めたら、このロールプレイにはこだわらず自由な話し合いの方を優先する。)

ロールプレイ例

A:あのう、Bさんはどう思いますか。
B:そうですね。わたしは昔から決まった言葉や書き方をしたほうがいいと思います。
A:あ、Bさんもですか。わたしもそう思います。Cさんは?
C:わたしはみんなにわかりやすい言葉を使って、結婚する人達が招待状を出すのがいいと思います。
B:あ、わたしの国でも招待状は結婚する人が書きます。
A:え? どうしてですか。
B:結婚するのは私達ですから…。あ、昔は親の名前を書いて出したかもしれません
が。Aさんの国は違いますか。
A:はい、わたしの国では両親が出します。その方が便利だと思います。
C:えっ? どうしてですか。両親が結婚するのではありませんよ…。

第3課 「はたらく」

A 第3課を読んで、ある人が次のように言いました。あなたはどう思いますか。
「仕事も大切かもしれません、それよりもやはりみんなで生活する方が大切です。お金より家族の方が大切でしょう。この家の子どもたちはまだ小さいし、お父さんがいて、いろいろ教えなければいけないこともあると思います。」

- ① 理由をあげて自分の意見を言うために、次のようなメモカードに理由と意見を書き、それを見ながら、意見を言う。

意見メモ

私は [仕事／家族] より、[仕事／家族] のほうが大切だと思います。
理由 (いくつでもいいです。)

1. _____ から。
2. _____ から。
3. _____ から。

- ② このカードには何も書かずに意見を言ってみる。

私は _____ より、_____ のほうが大切だと思います。
それは、_____ からです。
理由はそれだけではありません。
_____ ことや、
_____ ことも

その理由です。

自分の意見を言うことは、「話す」ことである。「話す」ときには「～です」「～ます」の文体を用いる。普通体は、通常、「書く」ときに用いられる。普通体を使ったり、箇条書きのままの形で話したりすると、書かれたものを音読していることになる。書いたメモを見ながら、「話す」練習をすることで、文体の違いを意識できるようにしたい。

第7課 「いう」

A 第7課を読んだある人が次のように言いました。あなたはどう思いますか。

「話を聞く人がどう聞くかということも大切だと思います。私の国には、話を聞くのが上手な人をほめる言葉があります。相手が何を言おうとしているかを考えながら聞けば、特急券のことも命令されたような感じはしなかつただろうと思います。」

7課の段階では、学習者は電車の車内放送が十分に聞き取れないか、やっと聞き取れて意味が分かるという日本語力であることが多い。そのような学習者にとっては、「命令されたような感じ」がするかどうかについてより、どうすればうまく聞き取れ、意味がわかるようになるかを話し合ったほうが現実的である。そこで、学習者がよく経験するであろうと思われるなどを話題にする。

① 自分の経験を話す。

I 他の人と日本語で話しているときの、経験について話してください。

1. 他の人と日本語で話しているときに、よく聞き取れなかつたり、意味がよくわからなかつたりすることはありますか。
2. そんなとき、どうしますか。

II 駅や、車内で、いつもと違う放送を聞いたときの経験について話してください。

1. 電車の駅や、電車の中でいつもと違う放送を聞いたことはありますか。
2. それは何についての放送かわかりましたか。

② 相手の意見を認めてから、自分の意見を言う練習

意見を言うときに、<書きましょう>A-2の_____は、確かに_____が、
_____を使って、「話して」みる。

話し方、聞き方のどちらが大切だと思うか話し合いましょう。

ある人が、「誤解をなくすためには、自分がどう話すかということより、相手が何を言おうとしているのかをよく考えながら上手に聞くことのほうが大切です。」と言いました。あなたは、どう思いますか。

IとIIで話したことを参考にして、あなたの考えを話してください。

第16課 「がんばる」

B あなたは大企業に勤めたいですか。小さくても自分の会社を経営したいですか。

学習者は、将来、企業で働きたいと思っている人達ばかりではない。どんな仕事に就きたいか、そのために必要な資格は何か、資格や学歴によって、労働条件に差があるのかどうかなどを考えて、今そのためにどんな勉強が必要だと思っているかを話してみる。これは、専門学校や大学を受験する際に面接で志望理由を述べる練習にもつなげられる。

① 意見メモを作る。

1. 将来したい仕事：_____

2. その仕事をするときに 必要な資格や条件

よりいい条件で働くために必要だと思うこと

② ある条件・事情を前提に述べられた意見を一旦認め、別の条件・事情の下ではと、別の考え方を述べる練習。<書きましょう> A-1 _____なら _____でよいのだが、」を使って「話して」みる。

メモを参考にして、このカードには何も書かずに話しましょう。

わたしは、将来 _____がしたいと思っています。

_____なら、資格は _____でいいのですが、
_____なら、_____。

わたしは、できれば、_____と思っていますので、
_____の勉強がしたいと思っています。

5-4-2 依頼する

第2課 「つたえる」

この課では<書きましょう>**B**で 招待状を書く練習がある。招待状を出すときには、他の人に電話で都合を聞いたり、誘ったりすることが多い。ここでは、電話で先生に都合のいい日を聞き、出席を依頼したり、近況を話したりする練習を考えてみた。

あなたは、今、日本語学校のクラス会の準備をしています。

担任だった先生に都合のいい日を聞いてから、日にちを決めようと思っています。

次のことが伝わるように、先生に電話をかけて、出席の依頼をしてください。

1. あなたは今大学の経済学部の2年生です。

2. 日本語学校を卒業してから、もうすぐ2年たちます。

3. 先日、仲のよかった友達と会ったときに、みんなが帰国する前に一度クラス会をしようと話し合い、先生の都合のいい日と時間を聞くことにしました。

4. 先日会った友達は、「今の学校は、忙しくて大変だけど楽しいです。」「日本語学校のみんなにすごく会いたいです。」などと言っていました。

5. あなたは、卒業してから今まで、先生に連絡をしたことがありません。

II. Aさん、Bさん、Cさんになって三人で一番いい方法を考えてください。

ロールカード「Aさん」

あなたは、22歳の留学生です。3月に大学を卒業して、帰国します。

日本は物価が高いので、洗濯機や、掃除機、冷蔵庫、レンジなどの電気製品は卒業した先輩からもらってそれを使いました。まだそんなに古くないので、だれかほしいという人がいたら、あげたいと留学生センターの先生に話しました。仲のいい後輩にも話したら、すぐに部屋にくるといいました。

1. 後輩とあなたは、違う国の出身です。

2. あなたが使っていた電気製品のいくつかは、先輩が区の「リサイクルセンター」というところから安く買ったものだと聞きました。

ロールカード「Bさん」

あなたは、今年の4月から大学で勉強するために日本へ来ました。

日本で生活するのは初めてで、冷蔵庫や、洗濯機、掃除機などを買わなければなりません。また、一人暮らしなので、電子レンジがあつたらいいなと思っています。

留学生センターの先生から 同じ寮に今年大学を卒業する学生がいるので、電気製品など、いらなくなるものを譲ってもらったらどうかという話を聞きました。

1. 今からその人のところへ行って 電気製品を譲ってもらうようにお願いしたいです。2. その人とあなたは違う国の出身です。

3. 電気製品のディスカウントショップがあることは知っていますが、それでも高いので、びっくりしています。

ロールカード「Cさん」

あなたは、日本の大学で勉強している留学生です。今年の4月に3年生になります。

昨日3月に卒業する先輩から電話があって、帰国するときにいらなくなる電気製品があるので一度部屋に見に来ないかと言われました。今から先輩の部屋へ行って、電気製品を見せてもらうことにしました。

1. 先輩とあなたは違う国の出身です。

2. あなたの洗濯機はとても古く また電子レンジがないのでほしいと思っています。

3. 一度、電気製品のディスカウントショップへ買いに行きましたが、思ったより高かったので、買わないで帰りました。

5-4-3 交渉する

第13課 「つかう」

B 「私たちの毎日の生活で、知らないと思う機械は何ですか。」

① 自分の場合について話す

学習者たちは、来日後、日本で生活するために必要なものをそろえるが、帰国するときにいらなくなってしまうことが多い。そのため、帰国時に不要になるものについて、話したほうが現実的で、意見もでやすい。

皆さんのが今使っている電気製品などで、帰国するときにいらなくなってしまうものは、どうしますか。(捨てますか。誰かにあげますか。売りますか。)

② ①のあと、帰国する先輩のところへ行って必要なものを譲ってもらうという設定で交渉の練習のためのロールプレイをする。

5-4-4 話し合い、依頼、発表を総合的に行う

10課と24課には「アンケート」が出てくる。アンケートに答える練習は本文の中でできるので、アンケート作成のために話し合い、自分の作ったアンケートに答えてもらうように依頼する練習を考えた。アンケートのテーマを教科書の各課の中から選び、教師が学習者に関連語句を紹介するという形ではない学習者自らが語彙を増やせるという能動的な教室活動の機会が作れる。

アンケートの作成のための話し合いは<書きましょう>の活動の一部としてメモを取りながら行い、アンケートを作成する。また、結果のまとめは<まとめましょう>の活動として表やグラフの作成をする。表やグラフにまとめたら、クラスで結果を発表する。

24課は教科書の終了段階なので、<話しましょう><書きましょう><まとめましょう>の総合的な教室活動に発展させ、上級への準備を図る。

1. 1課～24課で興味のあるテーマを選んで、話し合い、アンケートを作ってみましょう。
2. アンケートができたら、いろいろな人（先生、事務所の人、クラスの友達、他のクラスの学生など）に、答えてもらえるようにお願いしてください。
3. アンケートの結果をまとめたら、クラスで発表してみましょう。

5-5 <書きましょう>を考える

「書き言葉」として書く時に使われる言葉あるいは文の形を練習するときには、学習者が「書き言葉」と「話し言葉」を意識的に使い分けられるようになることが望まれる。

学習者の日常生活では、学校での「作文」「レポート」のほかに、手紙を書く、メモをとる、申込書に記入する、大学・専門学校への志望理由を書くなど、書くことが要求されることが多い。また、それにふさわしい文体（「～です/ます」「～だ」「～である」）がある。

<書きましょう>では、常に「書くとき」と「話すとき」の違いを意識し、「書くとき」にはそれがどんなときに、誰に、何を書くときのものなのか、状況に応じて文体が使い分けられるようにしたい。また、メモをとることは「書く」ことであるが、文章を書くとき、意見を言うとき、まとめるときなど、いろいろな場面で必要になるので、<書きましょう>の活動だけではなく、<話しましょう><まとめましょう>の活動にも取り入れた。

第2課 「つたえる」

この課の<書きましょう>Bは「招待状を書きましょう。」であり、クラス会と誕生日のパーティーへの招待状を書く練習をするようになっている。

しかし、「誕生日のパーティーへの招待状」や、本文にある「結婚式の招待状」は、学習者にとってそうたびたびおこることではないし、同じ招待状でも「結婚式」と「クラス会」では伝える内容が異なるのに、すべて同じ形式を使うのも現実的ではない。ここでは、次のような設定でクラス会の招待状を書いてみる。

① 招待状を書く

1. 次のことが伝わるようにクラス会の招待状を書いてください。

伝えたいこと

1. 日本語学校を卒業してもうすぐ2年になる。
2. 卒業生は、ほとんど大学や専門学校に進学したが、専門学校の学生は来年の3月に卒業し、帰国する人が多いので、みんなが帰国する前に集まることにした。
3. 担任だった先生には、電話で都合を聞いてから日にちを決めた。
4. 帰国後は集まることが難しいので、是非、集まってほしい。

_____の皆様

しばらくごぶさたしておりますが、皆様、_____でしょうか。

さて、今度_____ことにしました。

お忙しいとは思いますが、_____

と思いますので、是非_____。

日時_____

場所_____

お手数ですが、出欠の御返事を_____までにお知らせください。_____

_____月____日

② 出席か欠席かを知らせる返事を出す

(はがきの裏)

(はがきの表)

<p>お手数ですが、御出席、ご欠席のどちらかに <input type="radio"/> をつけて、ご返送ください。</p> <p>_____のクラス会に</p> <p>御出席</p> <p>御欠席</p> <p>御欠席の方は、先生やクラスの友達に伝えたい ことをお書きください。</p>	<p>郵便はがき</p> <p><input type="text"/> 50 101-0053</p> <p>東京都千代田区神田美土代町7-1</p> <p><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> 行き</p> <p>(自分の住所) <input type="text"/></p> <p>(名前) <input type="text"/></p>
---	---

第5課 「たべる」

この課では初めて「である体」がでてくるが、この課の<書きましょう>には、「～である」の練習がない。「である体」は「書くとき」のみに用いられ、「話すとき」には使われない。また「である体」の文章は読む人が特定されない。そこで「である体」がどんなときに使われるのかを練習してから、「である体」を使った書く練習を加える。

① 「である体」を使う練習

1. 次の文の _____ を「～である」の形に書きかえて下さい。

日本では、食事をする前に「いただきます」と言って挨拶をし、食事をするとき 普通は、右手に箸をもち、茶碗、小皿などは左手を持って**食べます**。

食べ物が口の中にある間に 話をしたり、食べるときに音をたてたりするのは、よくないことだ**言われています**。しかし、音をたててもかまわない**食べ物があります**。それはうどんやそば、ラーメンなどです。

食べます→ _____ 言われています→ _____
あります→ _____
うどんやそば、ラーメンなどです→ _____

②-1 書く前の話し合い

皆さんの国には、食事をするとき、いつもする決まった言い方や、食べ方などがありますか。日本と違うのはどんなときですか。クラスの人たちと話し合ってみましょう。

②-2 自分の体験を書く

2-b 日本に来て食事をするときに驚いたり、困ったりしたことについて、何でも自由に書いてください。

②-3 簇条書きの練習

②-2の作文の中から、食事をするときの自分の国と日本と違いについて書いたところを簇条書きにしましょう。

1. _____
2. _____
3. _____
4. _____
5. _____

②-4 簇条書きを文章化する

今回レポートを書くという作業の提示は行わなかつたが、②-1から②-4のような順で、レポートや報告書の書き方に慣れていくようにしたい。

②-3の簇条書きを見ながら、あなたの国で食事をするときのことについて、日本人に紹介する文章を書いてください。

第12課 「あつまる」

この課の<書きましょう>A「_____という話を聞いていると、_____がいかに_____かが分かるんです。」のように、明らかに話すときにしか使わない表現が扱われている。」中級では、初級と違い、話し言葉をそのまま書くのではなく、「書く」きまりを練習するので、以下のような入会希望理由欄に「書く」練習を加えた。

あなたは地域センターの集まりでお年寄りにインタビューをしました。

そのとき一人のおばあさんから、普段の生活では困らないが、天井の電気を取り替えたり、高いところの窓ガラスを拭いたりするのが大変だという話を聞きました。その話を聞いて、あなたは若い人ならなんでもないことでも、お年寄りには本当に大変なことがあるということに気付きました。あなたは、一人暮らしのおとしよりの手伝いをしたいと思って、区役所に問い合わせました。

ここに「おとしより公社」への入会希望書があります。必要事項を記入してください。

おとしより公社入会申込書

年 月 日

私は「おとしより公社」への入会を申し込みます。

お名前 _____ 生年月日 _____

御住所 _____

お仕事（学生の場合は学校名をお書きください）

電話番号 _____ (連絡先) _____

お手伝いいただける曜日（〇で囲んでください） 日 月 火 水 木 金 土

時間帯 _____

お手伝いいただくこと _____

入会をご希望になった理由をお書きください。

第24課 「なおす」

10課と24課にはアンケートが出てくる。いずれもアンケートを考える材料としてとして扱っている。ここではアンケートのテーマを決め、アンケート自分で作成する練習を考えた。

テーマについては、教科書の各課のテーマの中から選び、関連語句を教師が学習者に紹介するという形ではなく、学習者が語彙を自分自身で増やすという能動的な教室活動の機会が作れる。また、同じテーマを選んだ人達は共同で活動することもできる。

① アンケートを作る

I. 1課～24課で興味のあるテーマを選んでアンケートを作つてみましょう。

アンケート作成メモ

1. テーマ「_____」

2. アンケートの結果をまとめるときに、回答者の性別、年齢、職業、などは必要ですか。

3. 質問を考えましょう。

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

① アンケートの作成 (学生が作成したアンケート)

「仕事」についてのアンケートにお答えください。

年齢：才 性別：女 男 大学 専門学校 その他

仕事を決める時

1. 仕事を選ぶとき、どんな事を考えますか。
a) 給料 b) 趣味 c) 昇進 d) その他
2. 給料がいくら以上だったら仕事がしたいですか。
a) いくらでも大丈夫 b) 普通より高い c) 会社の規則と他人と同じ d) その他
3. 仕事をやってみて、その仕事が自分の趣味と合わなかったら、どうしますか。
a) すぐ退職 b) ずっと同じ仕事をしている c) 仕事をしながら他の仕事を探す
d) その他
4. あなたにとって、仕事で一番大切なことはどれですか。給料ですか。それとも
仕事の内容ですか。

5. 会社に初めて入る時、

- A とても高いお金がもらえるが努力しても地位が上がりません。
B とても少ないお金だけもらうが、努力すれば地位と給料が上がる。
あなたはどちらの会社に入りたいですか。

- a) A 会社 b) B 会社

..... (略)

ご協力ありがとうございました

この後、アンケートについて話し合う、結果を表やグラフにまとめる、発表のメモや原稿を作る、クラスで発表するというような活動ができると、「まとめる」「書く」「話す」の総合的な活動ができる。

5-6 「日本留学試験」に対応した教室活動例

5-6-1 記述問題

<話しましょう>に関して教師用マニュアルには次のような説明がある。「A・Bに分かれていますが、Aは原則として本文に対する反論であり、Bは各課のテーマ全体に関わる質問である。(中略)できるだけまとまった意見が述べられるように指導し、その意見を最終的に整理する目的で、作文という形にまとめさせるのがよいと思われる。」この考え方はまさに日本留学試験の記述問題につながる。与えられた課題に対して論拠を挙げながら、自分の意見を述べることを「テーマ別中級から学ぶ日本語」の授業の中でも展開させていくことが重要である。

(実践例 1) 7 課

「がんばって」という言葉は軽々しく使うべきではないという人がいます。もう十分がんばっている人に対して失礼だという理由からです。しかし一方で、「がんばって」という言葉はあいさつでもあり、相手への思いやりのあらわれだという意見もあります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。理由をあげて 400 字程度で書いてください。

① 7 課<いっしょに考えましょう>の中の質問項目 1、2(「日本語できれいだと思う言葉を五つあげてください。」「日本語できらいな言葉を五つあげてください。」)の答えとして必ず出てくるのが『がんばって』である。そこで二つの相反する意見に対して論拠を挙げて自分の意見を書くという日本留学試験用の記述問題を作り、実際に授業の中でやらせてみる。

日本留学試験同様、「20 分」「400 字程度」ということで実施する。評価に関しても、日本留学試験の考え方を採用する。

② 新聞記事の中からABの意見にあたるものを見出し、それを読み、話し合いをさせた上で記述問題に持っていくのもよい。その場合には、投書欄を単発読み物として取り上げるのではなく、相反する意見の投書を取り上げるようにする。

[A] 「頑張れ」って言いたいのに

「頑張れ」という言葉が気楽に使いにくくなつたのは、いつからだろう。
「こんなに頑張っているのに、『頑張れ』と言われるとつらい」「全力で闘っている人に、『頑張れ』と励ます言葉は禁物です」などと言われると、それではいつなら使っていいんだろうと思ってしまう。怠けている人を奮起させる時や、皮肉を言う時に限られてしまうのであろうか。

病気の人には「お大事に」という優しい言葉がある。では、試合や試験に臨む人に対しては、何と言えばいいのだろう。私はやはり「頑張れ」と言いたいが、聞いた人が重荷になるのなら、言葉をのみ込むしかない。

「頑張れ」は、最後まであきらめるな、手を抜くな、と励まして、思いやる言葉だと私は思う。使いにくくなってきたのは残念だ。

「頑張れ」という言葉にはいい意味のまま生き残ってもらいたい。「頑張れ」よ、頑張れ！

(朝日新聞 2001 年 10 月 22 日「声」)

[B]「励ますならば相手に合わせて」

22日の『頑張れ』って言いたいのにを読みました。私は元高校教師ですが、新米時代を除いて、生徒に「頑張れ」と言ったことがありません。疲れていたり、落ち込んでいる生徒に、この言葉は「凶器」になると気付いたからです。

私の妻は重度のアルツハイマー病患者です。発病してから15年ぐらいになります。教え子や知人から寄せられる手紙の中に「頑張れ」という言葉があると、「これ以上、どう頑張れというのか」と思ってしまいます。受験、スポーツ、病気など何でも、必死で「頑張っている」当人に、どうして他人が「頑張れ」と言えるのでしょうか。

私は「落ち着いて、肩の力を抜いて、実力を出しきれるように」などと言ってきました。試験は水物で、運・不運があることは百も承知でした。人は百人百様で、激励する言葉も百様あるはずなのに、どうしてこんな貧しい日本語しかないのでしょうか。いつも疑問に思っています。

(朝日新聞 2001年10月27日「声」)

(実践例 5) 21課

ある島では、観光客を誘致するためにどうしたらいいか議論されています。どんどん新しい道路を作り、島の交通を便利にすることが重要だという意見があります。一方で、山を削ってトンネルを掘り、新しい道路を作ることは島の景観を損なうことになると反対する意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。理由をあげて、400字程度で書いてください。

(実践例 2) 8課

日本は名刺文化だと言われています。肩書きの入った名刺は相手を知る上で重要だという意見がありますその一方で、地位ではなくその人の人間性こそが大切なのだから、名刺など必要ないという意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。理由をあげて、400字程度で書いてください。

(実践例 3) 11課

小学生の携帯電話は禁止すべきだという意見があります。それは、犯罪に巻き込まれたり、通話料の問題からです。一方で、家族との連絡が取りやすくなったり、新しい友達が増えるというプラス評価もあります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。理由をあげて、400字程度で書いてください。

(実践例 4) 16課

子供を教育するには、都会よりも自然が多い所がよいという意見があります。一方で、文化施設が揃った、さまざまな意味で刺激の多い都会でこそ良い教育ができるという意見があります。あなたはどちらの意見に賛成ですか。理由をあげて、400字程度で書いてください。

記述式問題の評価

(日本国際教育協会:「日本留学試験実施について 別紙 2 VII 日本語記述式問題の採点基準について)

日本語の科目では、「読解」、「聴解」、「聴読解」、「記述」と 4 領域に分かれています。「記述」以外の 3 領域についてはマークシート方式の試験ですが、「記述」は筆記試験なので、他の 3 領域とは別評価となります。

「記述」の採点に当たっては、文法的能力及び論理的能力のそれぞれについて、以下の基準に基づき採点し、その合計点(0~6 点)を表示することとします。

1. 文法的能力(0~3 点)

○個々の文についても、文章全体についても、執筆者の意図が明快に理解可能であるもの
(文法・表記上の軽微な誤りや文体上やや不自然な点は許容する) 3 点

○文法・表記上明らかに適切でない点を含むが、文章全体から執筆者の意図は明快に理解可能であるもの 2 点

○文法・表記上明らかに適切でない点がかなり目立つが、文章全体から執筆者の意図を想像することは可能であるもの 1 点

○意味不明の文が多く、文章全体から執筆者の意図を理解することが不可能又は極めて困難なもの 0 点

2. 論理的能力(0~3 点)

○主張に根拠が示されており、かつ、主張と根拠との間に十分な論理的関係があり、矛盾が認められないもの 3 点

○主張と根拠が示されており、概ね論理的な関係が認められるが、一部に論理的矛盾や非整合性も存在するもの 2 点

○主張は示されているが、その根拠が示されていない、又は、根拠が示されていても、論理性・客觀性を著しく欠いているもの 1 点

○筆者自身の主張が示されていない、又は、何を主張したか曖昧であるもの 0 点

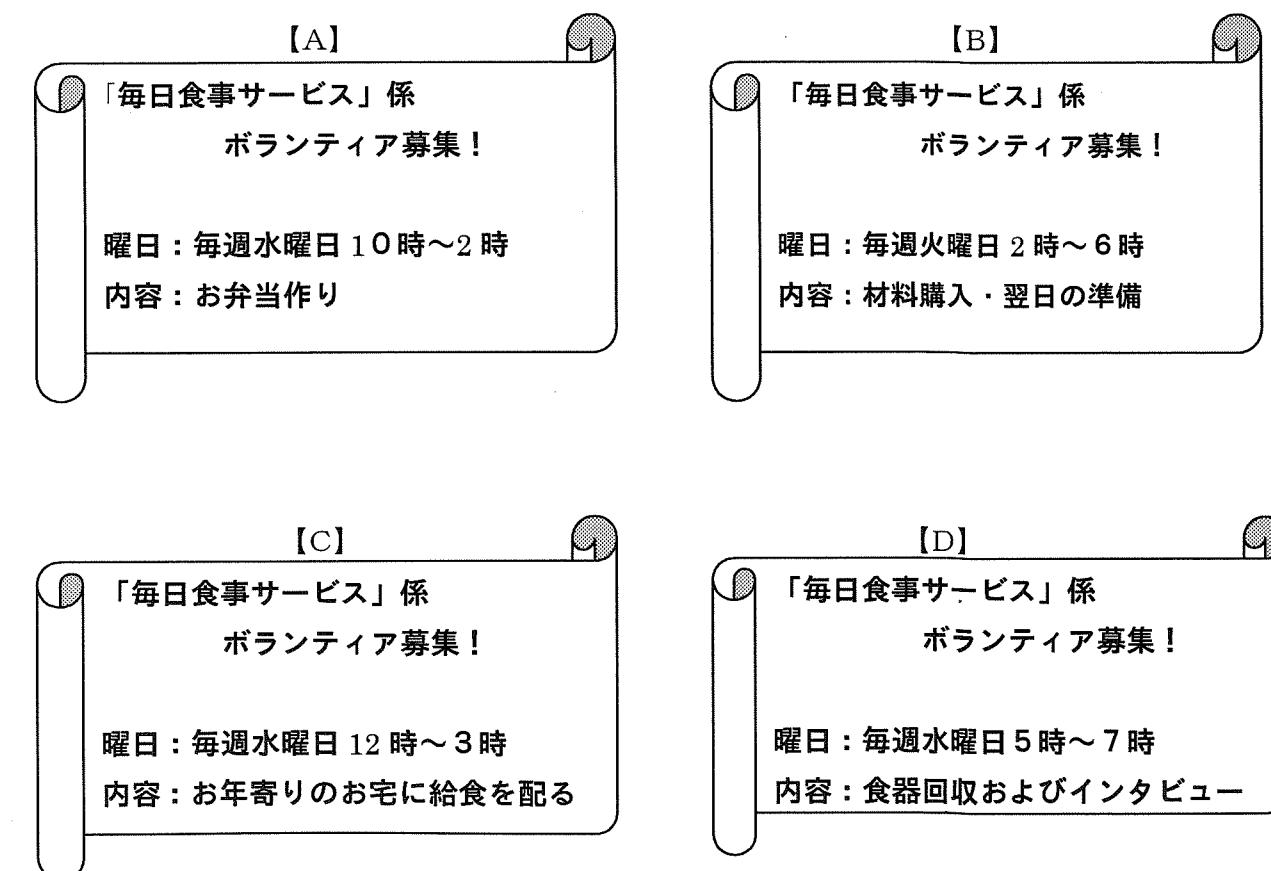
5-6-2 聽読解問題

「テーマ別中級から学ぶ日本語」の副教材「ワークブック」には、各課に二つのパターンの聽解練習が用意されている。内容が把握できたかどうかをチェックするための設問と、空所充当形式のディクテーションである。ここで、日本留学試験の聽読解問題を念頭におき、文字情報を見ながらテープを聞き、問題を解決するという練習を各課に挟み込んでいくことを考えた。

(実践例 1) 12 課

ここでは「おとしより公社」のことが取り上げられている。このことを就学生・留学生が自然に日本社会の中でボランティアに入っていく道を作るきっかけ作りに活用した授業展開をしてみたい。また、聽読解という形を取ることによって、実際の情報収集に近い形での学習を取り入れることを意図してもいる。

【聽読解問題】二人の学生が地域センターの張り紙を見て、話し合っています。女の学生はどうのボランティアに申し込むことにしましたか。



(テープ)

女:へええ、中野区じやお年寄りのために「毎日食事サービス」をやってるのね。
男:うちの区域は水曜日が担当なんだけど、転勤で何人もやめることになっちゃって……。
僕は次の日の準備を手伝ってるんだけど一緒にやらない?
女:そうねえ。私はむしろ作るほうをしたいなあ。
男:リンさんは午前クラスだから、9時から1時まで授業じゃない。
女:あ、そうだ。ええと、そうすると出来たお弁当を配るのも厳しいわね。
男:いっそのこと、準備のほうに回ったら?
女:でも、せつかくだから直接お年寄りと触れ合えるチャンスがあるボランティアがしたい。
男:じゃあ、やっぱりこれだね。

聴読解問題のあと幾つかの活動が考えられる。

- ① 地域の「敬老大学・寿大学(お年寄りのための区が主催している大学)」の学生またはその敬老大学OBの集まりに行き、インタビューを行う。
- ② 地域ボランティア活動をしている日本語学校の卒業生に来てもらって、話を聞く。または卒業生達が書いたものを授業で読む。
- ③ 「老後を良くする会」が主催している『毎日食事サービス』に参加し、日本人とともに活動を開始する。

聴解や聴読解のためのテープは身近なものをたくさん取り入れていきたい。国際交流小・中学校との交流などが年々盛んになってきてている。しかし、地域に住む一員としてボランティアにも積極的に参加し、そこで日本人との出会い・触れ合いを大切にしていくような教育を考える時が来ている。「お客様」としての日本語学校の学生ではなく、同じ地域に住む一住民、その地域で学ぶ学生として地域社会に飛び込んで行く中で、自分も作り上げる一人として参加している「多文化共生社会」を目指していくものである。

【参考】

学生が書いた作文 (杉並区会報 145号 1999年10月15日)

留学生として昨年日本に来た私は、六ヶ月間、日本の文化に適応することで精一杯でした。その後、私の生活に大きく変化をもたらしたのは、ボランティア活動でした。

最初、私はなんにも知らず、とても小さな事だけを手伝ったりするだけでしたが、その中でとても大変な事を学びながら、充足した時間を過ごしました。

私と一緒に仕事をする方たちは、毎週、栄養たっぷりのメニューを考えることに喜びを感じていました。見た目もきれいで、味もおいしい、お弁当を口にするおじいさん、おばあさんたちの事を考えると、私も自然に幸せな気分になります。その姿を見ていると、人間というのは、いかに長生きするかではなく、いかに元気に生きがいをもって、豊かに暮らすかが大事なのだと思われます。

私が日本に来て、ボランティア活動をしながら考えさせられたのは、お金でもなく、名誉でもなく、小さなことでも私にできることを一生懸命、感謝しながらやることが大事だということです。そして、その小さな活動を通して、人と喜び悲しみを分かち合うことがどんなに大切かと思うのです。

家庭で、社会で、誰かのために、自分の時間と力を使えば、この社会はもっと温かくなるのではないかでしょうか。私もこのボランティア活動を通して、自分の健康と時間を、他の人と分かち合いながら、温かい社会を作る人々の一員になりたいと思います。

(実践例 2) 15 課

区役所の掲示板の前で「日本人との交流プログラム」のお知らせを見ながら、男子学生と女子学生が相談をしています。二人はどの交流プログラムに参加することにしましたか。

《日本人との交流のお知らせ》

	内容	場所
A	大学教授による国際交流についての講義	区役所大ホール
B	小学生に自分の国の紹介	小学校
C	日本人家庭の訪問	日本人の家
D	大学生とのディスカッション	大学

(テープ)

男子学生: わあ、いろいろ交流プログラムがあるんだね。

女子学生: ほんとう。一緒に参加しよう。

男子学生: うん。僕は、日本の家って行ったことがないから、興味あるなあ。

女子学生: それは分かるけど、何てたって日本の学生と話し合いをして、いろいろ考えを聞
のが面白いんじゃない?

男子学生: そうだね。大学の先生の講義を聞くのは一方的でんまり興味がわからないけど。

女子学生: 日本人に自分の国を紹介するのも関心があるよね。でも、ま、それは先でもいい
しね。

男子学生: じゃあ、今すぐ申し込もうよ。

なるべく早い時期に、日本人との交流に関心を持ち、受身ではなく自分から積極的に参加す
るようにする。よく情報不足が指摘されるが、何気ない教室活動の中にこういった題材を入れ
ることで、簡単に情報が提供できる。

(実践例 3) 16 課

フランスのパリから来たアンリさんが、「物価」の表を見ながら日本人の友達の山田さんと話
しています。表は東京を基準にして、パリ・ロンドン・ニューヨーク・ベルリンの物価指数をそれぞ
れ表したものです。パリの物価はどれでしょうか。

	東京	A	B	C	D
総合	100	75	78	84	60
家具など	100	81	105	121	119
家賃	100	58	75	65	83
保健医療	100	137	53	68	30

(経済企画庁「内外価格差調査」1996 年より)

(テープ)

山田: 東京を 100 とした世界の都市の物価比較の表ですか、面白いですね。ベルリン、パリ、
ロンドンそれにニューヨーク。

アンリ: 5 つの都市を比べると、総合ではやっぱり東京が一番高いんですね。

山田: そうなんですよ。これじゃあ外国人にとっては本当に住みにくいでしょうね。

アンリ: だけど家具はパリのほうが高いんですよね。確かに日本には安くて良い家具がありま
すから、ほんと助かりますよ。

山田: ニューヨークは東京より家具が安いんですね。

アンリ: それから、東京は医療費が高いんで、病気をしたら大変。日ごろから健康には十分気
をつけてます。

山田: パリは東京に比べると、医療費はずっと安く済むんですか。いいですね。それにしても、
ベルリンの医療費は何であんなに安いんでしょう。

アンリ: ロンドンとパリはいろいろな点でよく似てるんですよ。パリのほうが医療費は若干高いよ
うですけど。

(実践例4) 20課

男の学生と女の学生がレポートについて話をしています。男の学生はどのビデオを借りることにしましたか。

【A】

トップ対談
「魅力ある大学作り」

千葉大学学長 & 埼玉大学学長
10月2日（土）午後1時～1時半
NHK教育テレビ

【B】

ドキュメンタリー
「ある大学の挑戦」

山口大学改革推進委員会
10月1日（金）午後8時～9時
TBSテレビ

【C】

日曜討論会
「大学改革は必要か」

各政党の党首による討論会
10月3日（日）午前9時～10時
NHK総合テレビ

【D】

ワイドショー
特集＜大学改革＞
「少子化を乗り切るためのある挑戦」

中野大学&杉並大学
10月1日（金）午前8時半～10時
日本テレビ

(テープ)

男：宿題、もうやった？

女：ああ、「大学改革について」のレポートね。いろんなテレビを見て、参考文献も読んで書き上げたわよ。

男：テレビって、どんな番組？

女：これこれ、週間テレビガイドを見て全部録画して参考にしたの。

男：へえ。どれか一本推薦してくれない？ それでそのビデオ、貸してもらいたいんだけど。

女：いいわよ。ええと、政治家の討論会っていうのは、いろんな角度から意見が聞けてたのはよかつたんだけど……。なんだか建前ばかりで、いまいちね。

男：ふうん。

女：「魅力ある大学作り」ってテーマは迫力に欠けてたわね。理想論言われたってね。

男：となると、やっぱり実際にやった報告とか記録ビデオみたいなのが役立つってわけだね。

女：うん。ワイドショーは、良い面も悪い面も率直に映し出してくれるから、ほんとに面白いと思うな。だけど、今度のはヤラセの要素が多くて、途中で厭になって見るのやめちゃったんだけど……。

男：そうなると、これしかないよね。じゃあ、これ1週間ほど貸してくれる。

女：うん、それがいいと思う。

展開例 1) 一つの事件をさまざまな番組で見ることで、テレビの持つ特徴などを汲み取る。さらに、同じ事件を新聞、雑誌などでも取り上げ、それぞれのメディアの特徴、役割などを話し合う。

展開例 2) 幾つかの班に分かれ、それぞれがニュースを取り上げ、新聞・テレビ・雑誌などを作成する。

展開例 3) 学内のほかのクラスに行って、取材をして学校新聞を作成する。

(実践例 5) **22 課**

ロンさんは「旅行案内」を見ながら、事務室の人と相談しています。パクさんはどれに参加することにしましたか。

【A】

京都・奈良の旅

- ・ 神社・仏閣を見て回り、歴史を考える
- ・ 3月 15日～17日
- ・ 費用 2万円

【B】

北海道ツアー

- ・ 札幌の雪祭りを見に行き、日本人家庭に泊まる
- ・ 2月 5日～8日
- ・ 費用 5万円

【C】

関西大学めぐり

- ・ 大阪・京都・神戸にある大学の見学
- ・ 2月 1日～3日
- ・ 3万円

【D】

伊豆半島バスツアー

- ・ 日本人との交流を目的としたバスツアー
- ・ 1月 15日～16日
- ・ 1万円

(テープ)

ロン： すみません。この旅行ファイルのことちょっと質問したいんですが。

職員： ああ、これですね。ちょっと説明しましょう。

ロン： お願いします。

職員： これは、古いお寺や神社に興味があつたら、とても面白いと思いますよ。

ロン： 歴史にはすごく興味があるんですよ。ただ、この時期はちょっと……。

いろいろあるんで、もっと早い時期のを選びたいんですよ。

職員： じゃあ、同じような場所ですけど、歴史じゃなくいろいろな学校を見て回るってツアーはどうですか？

ロン： 学校？ うへん、いくら京都でも気乗りがしません。

職員： じゃあ、あとは日本人と交流が出来るこれとこれ。

ロン： ああ、いいですね！ 私はマレーシア出身だから、日本の冬ってすごく興味があるんですよ。スキーもやれますか。

職員： それは問い合わせてみないとわかりませんけど。

ロン： そうですか。でも、やっぱりこれにします。日本人とも知り合いになれるし。

現在いろいろな機関から日本人との交流の企画や、留学生を対象にした旅行の企画がある。いくらポスターやニュースレターでアナウンスをしても、学生の性格によっては参加をためらうケースがある。このように教材に自然な形で組み込むことで、自発的に参加したいという気持ちになることが狙いの一つである。場合によっては、すでに経験した学生に発表してもらったり、体験作文の中からいくつか選んで紹介することも考えられる。

6まとめと今後の課題

本年度の研究は昨年度に続いて「コミュニケーション能力の涵養」をテーマとし、中級日本語学習者が現実のコミュニケーションの場で最大限にそのコミュニケーション能力を発揮できるようになるための新たな教室活動を提案した。

初級では、学習する文型、語彙なども限られており「書くこと」も「話すこと」と同じように行われることが多いため、コミュニケーション能力を重視した教室活動が行われていれば学習者も一つ一つの学習項目や文法などにあまり捕われることなく自然に統合された日本語を身につけることができる。しかし中級では語彙の重要性が増し、場面、文脈の依存度も高まるところから、場面や人間関係を考慮に入れないではその場に適した発話が難しい文末表現や、談話／会話の流れなどが多くなる。このため中級の学習者は自分が今このコミュニケーションの中でちょうどよい（社会文化的、社会言語的に）日本語を使っているのかどうか分からなくなつて自信を失ったり、あるいは個別に学習してきた色々な項目をどのように結びつけたら日本語で自分の気持ちや意見を上手に相手に伝えられるのかがはつきり掴めなかつたりして、学習に対して意欲を失つたり不安感を持つたりしやすい。

中級は初級のように学習項目がはつきり決まっているわけでもなく、また上級という更なる段階もあり、教師にとっても学習者にとっても学習時間が長い割には達成感の持ちにくい段階ではないだろうか。しかし実社会での現実的なコミュニケーションの場で情報や意見、さらには感情などを伝達しあう相互行為としてコミュニケーションを考えた場合、中級で獲得する能力がもっとも必要とされるのではないだろうか。

今回の研究では中級を初級と上級の間に位置する段階としてかなり意識的に4技能ごとに中級としての能力を抽出してみた。しかしながらぶん中級の範囲が広すぎること、範囲が漠然としていること、特に「書くこと」では上級との境界がはつきりしないこと、さらに時間的な制約もあり、すべてを検討することはできなかつた。また中級の持つ「読解」の問題点にも直接的には触れることができなかつた。今後の課題としてい。

今回の研究のもうひとつの狙いは、新たな教室活動の提案を学習者と同様に我々を含めた日本語教師と共に考えたいという点である。日本語教師の多くはまじめに日々の授業に取り組み、いかにしてよりよい授業をすることができるか研究を重ねている。しかし教師の多くは日本語が母語であり、また日本国内で授業をしていることから自然に日本人に特有のものの考え方や価値観を前提にして教科書の内容を吟味し、授業を組み立てていることも多く、またそのことに自らが気づかない場合も多い。教師が今まで持っていたものの見方や授業に対する考え方から一度自由になり、再構築し、常に自分自身に対してクリティカル・シンキングの姿勢を持ち続けたいと思う。

7参考文献一覧

《参考文献》

- (1) Bachman, Lyle (1990) *Fundamental Considerations in Language Testing*: Oxford University Press 池田央・大友賢二(1977)『言語テスト法の基礎』C. S. L.
- (2) Beebe, Leslie (1987) *Issues in Second Language Acquisition*: Heinle and Heinle 島岡丘監修／卯城祐司・佐久間康之訳(1988)『第二言語習得の研究 5 つの視点から』大修館
- (3) Coulthard, Malcolm (1977) In *Introduction to Discourse Analysis*: Longman Group 吉村昭市他訳『談話分析を学ぶ人のために』世界思想社
- (4) Scaroells, Robins & Oxford, Rebecca (1992) *The Tapestry of Language Learning: The Individual in the Communicative Classroom*: Heinle and Heinle Publishers. 牧野高吉・菅原永一他訳(1997)『第2言語習得の理論と実践 タペストリー・アプローチ』松柏社
- (5) Widdowson, H.G. (1978) *Teaching Language as Communication*: Oxford University Press. 東後勝明・西出公之訳『コミュニケーションのための言語教育』研究社出版
- (6) 青木直子・尾崎明人・土岐哲編 (2001)『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
- (7) 庵功雄(2001)『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク
- (8) 市川伸一(1996)「批判的思考力の育成と評価」「認知心理学者 教育評価を語る」若き認知心理学者の会、北大路書房
- (9) 井上俊他(1995)『他者・関係・コミュニケーション』岩波講座現代社会学3 岩波書店
- (10) 岡崎眸・岡崎敏雄(2001)『日本語教育における学習の分析とデザイン』凡人社
- (11) 亀山恵・片桐恭弘(1999)『談話と文脈』岩波講座言語の科学7 岩波書店
- (12) 小泉保(1990)『言外の言語学』三省堂
- (13) 小菅敦子・小菅和也(1995)『スピーキングの指導』研究社
- (14) 鹿毛雅治(1996)「考えることの評価と教育実践」「認知心理学者 教育評価を語る」若き認知心理学者の会、北大路書房
- (15) 高橋正夫他(2000)『コミュニケーション・プラクティス』中教
- (16) 田中望・斎藤里美(1993)『日本語教育の理論と実際』大修館書店
- (17) 田中望(2000)『日本語教育のかなたに 異領域との対話』アルケ
- (18) 寺村秀夫(1990)『ケーススタディ 日本語の文章・談話』おうふう
- (19) 當作靖彦(2001)『ナショナルスタンダーズ 日本語教育講演会予稿集』「スタンダーズ・プランからレッスンプランへ」江戸カルチャー日本語学校

- (20)西坂仰(1999)『会話分析への招待』世界思想社
- (21)西口光一(2001)『状況的学習論と基礎日本語教育での実践』国際日本語普及協会
- (22)西阪仰(1999)『会話分析への招待』世界思想社
- (23)橋内武(1999)『ディスコースー談話の織りなす世界』くろしお出版
- (24)春原健一郎(2001)『地域の多文化交流を目指した日本語教育』月刊日本語 9月号
- (25)堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』くろしお出版
- (26)牧野成一他(2001)『ACTFL-OPI 入門』アルク
- (27)松本茂他(2000)『コミュニケーション教育フォーラム'99 コミュニケーション教育の現状と課題』英潮社ブックレット 21
- (28)村松賢一(1998)『いま求められるコミュニケーション能力』明治図書
- (29)メーナード泉子(1993)『日英語対照研究シリーズ 2』くろしお出版
- (30)山内博之(2001)『OPI的教授法』月刊日本語 11月号
- (31)共同研究B-1(2001)『留学生・就学生に日本語コミュニケーション能力を涵養する—初級の教室活動案作成を通して—』平成 12 年度文部省補助事業「教材等研究・開発」(立野・嶋田・澤田)
- (32)日本国際教育協会(2001)「日本留学試験実施について」

《参考にした教科書》

- (1)荒井礼子他(1991)『テーマ別 中級から学ぶ日本語』研究社
- (2)荒井礼子他(1991)『中級から学ぶ日本語 教師用マニュアル』研究社
- (3)文化外国語専門学校(1992)『文化中級日本語 I、II』凡人社
- (4)東海大学留学生センター(1979)『日本語中級 I』凡人社
- (5)名古屋 YMCA 教材作成グループ(1995)『日本語初中級 理解から発話へ』スリーエーネットワーク
- (6)寺村秀夫、筑波大学日本語教育研究会編(1983)『日本語表現文型中級 I、II』凡人社
- (7)AOTS(2000)『新日本語の中級』スリーエーネットワーク
- (8)土岐哲他(1995)『日本語中級 J301』スリーエーネットワーク
- (9)土岐哲他(1999)『日本語中級 J501』スリーエーネットワーク
- (10)架谷真知子(1998)『日本社会探検』スリーエーネットワーク
- (11)早稲田大学日本語研究教育センター編(1995)『外国学生用日本語教科書中級一文型例文集改定』早稲田大学日本語研究教育センター
- (12)水谷信子(1989)『総合日本語中級前期』凡人社
- (13)水谷信子(1987)『総合日本語中級』凡人社
- (14)川瀬生郎他(1990)『日本語中級 I』凡人社

- (15)川瀬生郎他(1996)『日本語中級 II』凡人社
- (16)桜井晴美(19)『自然な日本語』凡人社
- (17)桜井晴美(1991)『自然な日本語 II』凡人社
- (18)名古屋大学日本語教育研究グループ編(1988)『現代日本語コース 中級 I、II』名古屋大学出版会
- (19)鎌田修(1998)『生きた素材から学ぶ 中級から上級への日本語』ジャパンタイムズ
- (20)Delmer M.Brown、他(1987)『An Introduction to Spoken Japanese』凡人社
- (21)近藤安月子・丸山千歌編(2001)『日本への招待』東京大学出版会
- (22)佐々木瑞枝他(2001)『アカデミック・ジャパニーズ』ジャパンタイムズ

《参考にした副教材》

- (1)富阪容子(1997)『なめらか日本語会話』アルク
- (2)山内博之(2000)『ロールプレイで学ぶ日本語 中級から上級への日本語会話』アルク
- (3)国際学友会日本語学校(1990)『留学生の日本語会話』国際学友会日本語学校
- (4)近藤光夫他(1998)『トピック中・上級 楽しく学ぼう日本語会話』国書刊行会
- (5)高柳和子他 TIJ 東京日本語研修所(1993)『日本語会話中級 I、II 一基礎文法を使って日本語の世界を広げよう』凡人社
- (6)文化外国语専門学校編(1995)『楽しく話そう』凡人社
- (7)小澤康則・津崎浩一(2000)『ミニドラマ日本語会話』時事日本語社
- (8)日暮嘉子(1989)『Current Japanese—現代日本語— 異文化間にみるコミュニケーション』凡人社
- (9)三牧陽子他(1997)『過渡期の「日本」を考える』凡人社
- (10)東海大学留学生センター(1995)『日本語口頭発表と討論の技術』東海大学出版会
- (11)目黒真実他(2001)『コミュニケーションに強くなる日本語会話』アルク
- (12)飛田良文(1997)『日本語文章表現法』白帝社
- (13)羽田野洋子・倉八順子(1995)『日本語の表現技術 読解と作文中級』古今書院
- (14)倉八順子(2000)『日本語の作文技術』古今書院
- (15)日本語教育研究会資料シリーズ編集委員会編
『最新版これが日本だ—ロールプレイのためのカード集—』凡人社